2015 年 4 月 24 日号
リスクフラッシュ 206 号

Risk Flash No.206
(Vol.6No.4)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長　久保英也
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場 1-1-1　TEL:0749-27-1404
FAX:0749-27-1189 **e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp**
Web page : http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2

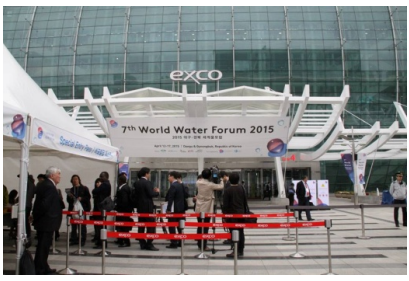
●大学国際化の視点：「第 7 回世界水フォーラム」のテーマセッションを運営して・・・・・・・・Page 1-2
●リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・Page 3

大学国際化の視点

「第 7 回世界水フォーラム」のテーマセッションを運営して

滋賀大学リスク研究センター長　久保英也（くぼひでや）

3 年に 1 度開催される水に関する世界最大のコンファレンスである「世界水フォーラム（以下、WWF と呼ぶ)」が韓国のデグ市で開催されました。国賓の大統領 8 名、地方自治体のトップ 200 名、研究者 1,000 名を含め、参加者総数 30,000 名の規模です。主要なセッション数は 262 を数えます。今回の 2015 年は第 7 回目の開催となりますが、第 3 回の同フォーラムは京都・滋賀で開催されました。



琵琶湖を有する滋賀の大学の存在感を示す絶好の機会と考え、滋賀大学リスク研究センターは、①同会議の中心をなす「テーマセッション」を自ら運営、コーディネートすること、②多くの来場者が期待できる展示ブースを出展すること（滋賀県と合同)、③日韓の知事会談を実現すること、の 3 つを目標に 1 年にわたり準備をしてきました。

国際機関や各国の政府機関が押さえるテーマセッションを獲得する競争は激烈でしたが、国際交流協定校である韓国啓明大学のサポートを受け、3 か月間に及ぶ WWF 本部へのアピールの末、無事獲得に至りました。最終のテーマセッションの数は約 120 で、その多くの国際機関がコーディネートをしています。なお、テーマセッションを日本が運営しているのは、滋賀大学のセッションだけです（セッション番号は T-1-4-5)。

セッションは、井戸敏三兵庫県知事、西嶋栄治滋賀県副知事、嘉田由紀子びわこ成蹊スポーツ大学学長（元滋賀県知事）を擁し、ここに滋賀大学リスク研究センターとアジアからはラオスと韓国、欧州からマケドニアの研究者を加え、「世界の湖沼流域におけるステークフォルダーの参加・合意と環境分野の資金調達」というテーマで臨みました。

滋賀県副知事　西嶋 栄治 氏

兵庫県知事　井戸 敏三 氏

セッション風景

びわこ成蹊スポーツ大学　嘉田由紀子学長

久保英也 滋賀大学リスクセンター長

我々のセッションは夕食前の時間にも拘わらず約 70 名の参加者を迎え、熱心な報告と議論がなされました。とりわけ、環境分野で金融市場から直接資金調達を行う

という提案は前例がなく、シンポジストの間でも議論となりました。この環境リスクファイナンスのスキームは琵琶湖環境科学総合センターなどと滋賀大学が組む環境プロジェクトチーム(以下、ＰＴと呼ぶ)とファイナンス学科のリスクファイナンス PT との協業の結果生まれたものです。

一方、ブースは 4 月 12 日（日）～17 日(金)の 6 日間にわたり開設し、総訪問者数は約 700 名にも及びました。ブースの前には黒山の人だかりができる時間帯もあり、滋賀県の担当者や啓明大学の日本学科の学生の応援を得ながら汗だくで対応しました。来客者の大半は韓国の方と考えていましたが、アフリカや欧州からの訪問者も多く国際色豊かで、質問も多岐にわたりました。

日本から 3 名の知事･知事経験者を同行したこともあり、韓国側の金寛容慶尚北道知事、李仁善副知事による公式晩餐会を開いていただきました。李仁善副知事は 2012 年の琵琶湖ビジネスメッセ時に来日いただき、当時滋賀県知事の嘉田学長と会談いただきました。その後も滋賀大学が推進する関西広域連合と韓国広域連合や慶尚北道、デグ広域市との交流に尽力いただいています。

慶尚北道のグミ市には東レの韓国法人があり、炭素繊維の製造を行うなど経済交流も盛んで、韓国側は特に日本企業の韓国進出を熱望しています。日本における海外企業の日本への誘致より、はるかに熱心であり、学ぶところがあります。

第 7 回世界水フォーラムを通じ、水環境への世界の人々の興味や懸念は同じであり、その中で日本が果たす役割、とりわけ、琵琶湖を抱える滋賀県に位置する滋賀大学が果たすべき役割が大きいと確信しました。（文責 リスク研究センター長　久保英也）

参考：テーマセッションの報告者と報告テーマ

① 国際河川のメコン河の IWRM　Associate Professor, National University of Laos/ Phouphet KYOPHILAVONG, 金秉基　滋賀大学准教授
②「韓国の洛東河の流域管理」Assistant professor Hyunkyun Bae, Professor Geunwoo Ryu, Associate Professor Gabje Jo/ Keimyung University
③「プレスパ湖(マケドニアとギリシャなどの国境にある)の IWRM：理論から実践へ」 Project Manager UNDP/ PhD Dimitrija Sekovsk
④　琵琶湖の水質改善と生態系の課題、つながりの再生」 西嶋栄治 滋賀県副知事
⑤「水と人のかかわりの回復と地域連合の重要性」嘉田由紀子 琵琶湖成蹊スポーツ大学学長（元滋賀県知事）.

⑥「IWRM における環境リスクファイナンスの貢献」久保英也 滋賀大学教授、学長補佐、リスク研究センター長.
⑦「森林―湖沼－河川－瀬戸内海の“IWRM"」井戸敏三 兵庫県知事、関西広域連合長.

○　コーディネーター：久保英也　滋賀大学教授、学長補佐、リスク研究センター長

リスク研究センター通信

政府主導による官民協働型の海外留学支援制度である、「トビタテ！留学 JAPAN　日本代表プログラム」に第１期生に引き続き、第 2 期生も本学経済学部生が選抜されました！

詳しくは
http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=34:2　をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】
1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】
1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】
1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】
1. 配信メールが回線上の問題（メールの遅延，消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】
1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変して blog 等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12

＊当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、
菊池健太郎、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局
（Office Hours:**月ー金** 10:00-17:00）
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場 1-1-1
TEL:0749-27-1404　FAX:0749-27-1189
e-mail:　risk@biwako.shiga-u.ac.jp